

令和2年度  
除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組  
プラットフォーム(第8回)

議事概要

1. 日時 令和2年12月9日(水) 15:00～16:30
2. 場所 WEB会議
3. 次第
  - (1)今冬の実証実験計画
  - (2)準天頂衛星システムを活用したロータリ除雪車自動化の開発について
  - (3)準天頂衛星受信機最新動向
  - (4)SoftBankセンチメートル級測位サービス「ichimill」測位性能検証結果
  - (5)その他の情報提供
4. 要旨
  - (1)今冬の実証実験計画 (除雪機械の高度化推進グループ)

これまでの知床峠からR38狩勝峠へ実験場所を移し、様々な障害物でのシュート自動制御安定性、3D-LiDERによる雪堤高さ計測制御、ミリ波レーダとAI物体認識による周辺探知技術の試験を実施予定。吹雪時画像鮮明化装置の実機搭載試験はR231・R337(石狩市)で実証実験を行う。
  - (2)準天頂衛星システムを活用したロータリ除雪車自動化の開発について  
(NEXCO東日本)

準天頂衛星「みちびき」と高精度地図を利用したガイダンスシステムを開発し、夕張の試験フィールドで自律走行試験を実施している。2022年度を目標に、雪道での自律走行と作業操作の自動化を目指している。

(3) 準天頂衛星受信機の最新動向他 ((一社)衛星測位利用推進センター)

CLAS受信機各メーカーの最新動向について報告。準天頂衛星システムは、7機体制に向けた追加3機を2023年に向けて開発している。2023年度以降、市場がどのように活性化していくか注視していく。

(4) SoftBankセンチメートル級測位サービス「ichimill」測位性能検証結果  
(ソフトバンク株式会社)

Softbankのcm級測位サービス「ichimill」の性能評価を7月に知床で行った。独自のRTK測位基準点を全国で3,300箇所以上設置しているが基線長境界地でもRTK測位が実用できることを実証した。

(5) その他の情報提供

◇ 除雪機械の安全性向上技術の技術公募について(北陸地方整備局)

「物体検知・警告技術」と「映像鮮明課技術」に関わる除雪機械の安全性向上技術の公募を開始した。また、R2年度より歩道除雪車の装置自動化の開発を開始。i-Snowロータリ除雪車のシュート装置自動化の技術を北陸地整の歩道除雪車に装備し、今冬に冬期試験を実施予定。

以上